

授業改善推進プラン〈社会〉

I 社会科における令和元年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ◇「観察・資料活用の技能・表現の力」を高めるために、一つの資料から必要な情報を読み取る授業や、複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える授業を行ったことで、地図や統計などから情報を読み取る力は目標値を上回った。やや課題となっていた複数の資料から情報を読み取り、関連付けて考えることは改善することができた。
- ◇日常的に地図や資料に親しませたり、体験をもとに考えさせたりした指導の積み重ねにより、知識・理解についても目標値を上回った。
- ◇課題を解決するのに適した資料、情報を集める力をさらに伸ばしていく必要がある。

II 社会科における学習効果測定結果の分析

第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none">◇全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の実現状況は概ね良好といえる。◇内容別に見ると、目標値を上回っているが、「安全について」については比較して平均正答率がやや低く、復習の必要がある。	<ul style="list-style-type: none">◇全体の平均正答率は、目標値を大幅に上回っており、学習の実現状況は概ね良好といえる。◇どの領域と観点においても、目標値を上回っており、学習の成果が十分に表れているといえる。	<ul style="list-style-type: none">◇全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので、学習の実現状況は概ね良好といえる。◇領域別に見ると、「国土の自然などの様子」について、日本の位置や北方領土についての理解の正答率がやや低く、復習の必要がある。

III 結果に基づいた授業改善のポイント

- ◇資料から情報を的確に読み取る技能を高めるために、資料に応じた読み取り方や複数の資料を関連付けた読み取り方を指導する。大まかな傾向・変化など、資料の読み取り方を具体的に指導する。
- ◇思考力・判断力・表現力を高めるために、資料から読み取ったことを生かして考え、話し合ったり書いたりする活動を多く設定する。
- ◇「社会的事象についての知識・理解」を確かなものとするため、実物や地図などの資料を積極的に活用して、分かったことを書きまとめる授業を行い、知識を定着させていく。
- ◇地図帳を常に手元におき、日常的に都道府県や市町村の位置、地域の特色について索引を使って調べられるようにする。地図などの資料を日常から活用していく習慣を身に付ける指導を行う。
- ◇映像資料やICT機器を有効活用し、興味・関心・意欲の向上を図る。
- ◇児童がICT機器を使って調べる機会を設け、必要な情報を収集する力を高める。

IV 社会科の授業改善策

【思考・判断・表現】

(中学年)

- 大田区のまちの様子が分かるように地図などを使って考える機会を増やす。
- 授業の中で出てきた地名などを地図帳で確認する活動を増やす。
- 白地図を活用して日常的に地図に親しませ、地図記号や方位等の基礎的事項をおさえさせる。
- 授業中に出た課題を家庭学習で調べてくるように促すことで、授業で学んだことと自分の暮らしと密接に関係していることに気付かせる。
- 消防施設や水道施設など身の回りで調べられることは実際にその場に行き、自分たちの生活とどのように関わっているのか実感させる。

(高学年)

- 「変化している理由や二つの資料からいえること」について、小グループで話し合う場を設定することで、複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える力を育てる。そして、「変化している理由や二つの資料からいえること」について予想・解釈する活動を重視する。小グループで予想・解釈してグループの考えをまとめることで、複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える力を伸ばす。
- ニュースや新聞に興味・関心をもたせ、日常生活の中で身近に起こる様々な事象について自分なりの考えをもつことができるようにさせる。
- 「これは何のための工夫か」「どうして、〇〇はこのような政策を行ったのか」等、社会的事象の意味について発問することで、考える力を養っていく。
- 調べたことをまとめたり討論したりすることで、資料をもとに自分の意見を発表できるようにする。

【技能】

(中学年)

- 写真や資料を見るときは、分かったこと・気付いたこと・思ったことを話し合わせる。その後、問題を提示して資料などの見方を理解させていく。
- グラフを読み取るときは、何を表しているグラフなのか(表題・横軸・縦軸)の確認を行ったうえで、どう変化しているのか(増えているのか減っているのか)などに注目させる。
- 調べて分かったことを新聞やポスター、白地図などにまとめることができるようにする。
- 表の情報を読み取ってグラフに転記する時は、グラフの描き表し方を確かめてから描くようにする。
- インターネットのキーワード検索を使って必要な情報を集める方法について指導し、体験させる。

(高学年)

- 細かい数値を読み取るよりも、「全体がどのように変化しているか」や「変化はどこが大きくて、どこが小さいのか」を読み取ることに重点を置く。
- グラフを読み取る力を高めるために、次の手順を習慣化していく。
 1. グラフのタイトル
 2. 出典と発行年
 3. 縦軸と横軸
 4. 全体はどのように変化しているか
 5. 変化はどこが大きくて、小さいかまた、ペアでの教え合いやデジタル教科書を生かして、全員が読み取った情報を共有できるようにする。
- 資料を活用して調べる前に、問いについて予想したことを書かせたり、話し合わせたりすることで「予想を確かめるために必要な資料・情報」を明らかにし、資料活用力を高めていく。
- 地図や地球儀を教室環境の中に取り入れ、いつでも地図に触れられる環境にする。
- 資料を活用しながら、学んだことを整理してまとめたり、発表したりする機会を設ける。
- インターネットで調べた内容の中から、必要な情報のみを読み取り、発表したり考えをまとめたりする機会をつくる。

【知識・理解】

(中学年)

- できるだけ身近な生活とつながりのある教材を用いたり、体験活動を取り入れたりしながら知識・理解を深めさせ、自分の問題としてとらえられるようにする。
- フラッシュカードやゲームなどを使って、47都道府県名や県庁所在地、地図記号などの定着を図る。
- 地域の見学や体験活動、身近な教材を活用しながら知識・理解を深めさせる。見学前に質問や疑問を出させることで意欲を高めて、より知識を得られるようにする。
- 47都道府県名の漢字の読み書きができるようにする。

(高学年)

- フラッシュカードやゲームなどを使って、47都道府県名や大陸や海洋の名前、歴史上の人物の名前などの定着を図る。
- 学んだことを新聞やノートにまとめる活動を通して、知識の定着を図る。
- ビデオやインターネット、タブレットPC、電子黒板、書画カメラなどの ICT 機器を活用し、実際に見学できないものでも視覚的に分かりやすく理解できるようにする。